

試 験 報 告 書

依 頼 者 株式会社 ユー・イー・エス

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 本報告書中

表 題 細菌の消長試験

2016 年(平成 28 年)07 月 25 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

細菌の消長試験

1 依頼者

株式会社 ユー・イー・エス

2 検体

- 1) ミネラルウォーター(対照品)
- 2) ミネラルウォーター(災害用 Ag 活性炭入り)
- 3) 災害用 Ag 活性炭

なお、検体1)は2016年08月05日に搬入された。

また、検体2)は検体1)及び3)を用いて一般財団法人日本食品分析センターで調製した。

3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また、あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い、検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1~3に示した。

なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数(/mL)			
		開始時	3時間後	6時間後	24時間後
大腸菌	検体1)	3.2×10^3	3.0×10^3	3.7×10^3	3.9×10^3
	検体2)*	—	<10	<10	<10

<10 : 検出せず

保存温度 : 室温

* 検体1)500 mLに検体3)1 gを添加, 混合したもの

表-2 試験条件

	試験菌	<i>Escherichia coli</i> NBRC 3972(大腸菌)
試験菌液	試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35 °C±1 °C, 18~24時間培養した後, 精製水に浮遊させ, 菌数が約10 ⁶ /mLとなるように調製した。	
試験液	検体500 mLに試験菌液1 mLを接種	
保存条件	3時間, 6時間, 24時間(室温)	
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈	
生菌数測定	SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混釈平板培養法	35 °C±1 °C, 2日間培養



写真-1 大腸菌 検体1) 開始時
(試験液 0.1 mL)



写真-2 大腸菌 検体1) 24時間後
(試験液 0.1 mL)

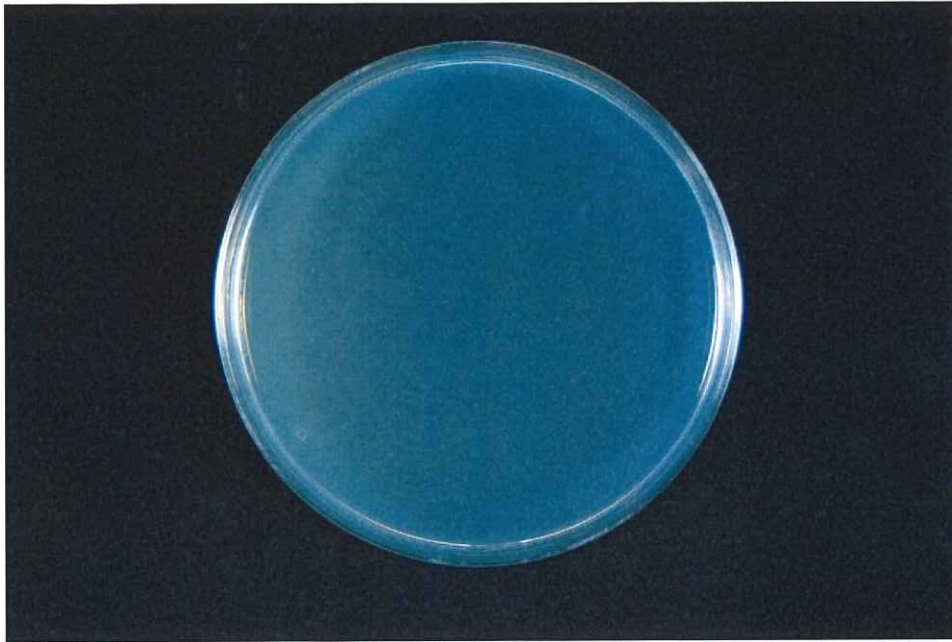


写真-3 大腸菌 検体2) 24時間後
(試験液 0.1 mL)

以 上